

幼児が夢中になる遊

幼児期にふさわしい 自然体験活動の プログラム開発 2年次の報告

子ども達がのびのびと思い切り遊べる豊かな自然環境のある「妙高青少年自然の家」、そのフィールドを利用して園の子ども達はいろいろな自然体験を重ねています。今年度もあちこちで夢中になって遊ぶ姿が見られました。

昨年は、子ども達が活動しているところを観察して、エピソードの分析・考察がありました。その評価を基に、今年度は「指導計画に位置付けされた活動を」ということで、自然の家職員と園とで企画から一緒に取り組み、運営・指導援助を行いました。

事前に双方で情報を共有したことで今までの活動プログラムに広がりが出て、心動かされる体験ができたと思われま。

また、四季を通じ継続して施設のフィールドを利用したことも、場所や時間が保障されている安心感があり、主体的に遊びこむことができました。さらに雨の時にも野外に出るなど、自然に合わせた経験をさせた園もあり、ここにも学びがあったに違いありません。

今後は、自然の家のフィールドで培った感覚や感性を日々の活動のなかで生かし、新しいことにチャレンジする勇気や未知のものへの好奇心を育てていきたいです。



妙高市教育委員会
園指導主事 宮田友子



秋



事業担当 室井 修一

※本研究内容は別紙報告書を作成し、ホームページに掲載しています。

幼児の諸感覚

「雪がいっぱいだよ！」
「雪がふわふわで進めないよ！冷たい！」

↓
深雪の中で、全身を使って遊びます。雪の重力感や柔らかさ、冷たさなど諸感覚を通して感じていきます。どっふりと雪と関わり雪の特質や体の使い方を学びます。

幼児の挑戦

「よし 登ってみよう！」
「見て ここまで登れたよ！」

↓
自ら挑戦し、登りきったときの笑顔は自信に満ち溢れています。自信を重ね更なる挑戦をしていきます。揺るがない自己効力感を育みます。

び～春夏秋冬～



幼児の気づき

「なぜ、石の下にゲジゲジがいるの？」
「この草なあに？」

↓
探究心が豊かな幼児は、いろいろなことに興味を持ちます。自分で確認し理解することで、更なる関心を広げていきます。幼児期の大切な学びです。

幼児の思いやり

「がんばって 助けてあげるよ！」
「ここつかんで！」

↓
幼児同士が声をかけ合い、手を差し出し仲間を助けてました。困難な場面（小さな滝を登る）が幼児の思いやりの心を育みました。多様な環境で幼児は学びました。



夏

幼児期にふさわしい 自然体験活動

たくさんの保育園・幼稚園にご利用いただきました。

ありがとうございます。

平成 23 年度利用
保育園・幼稚園（順不同）

- たちばな・
- たちばな春日幼稚園
- ふきのとう保育園・
- 坂戸はちの巣保育園・
- 第二はちの巣保育園
- 旭が丘幼稚園
- 学校法人明照学園明照幼稚園
- 社会福祉法人ときわ保育園
- 上越教育大学附属幼稚園
- 上越市立柿崎第一保育園
- 聖公会紅葉幼稚園
- 木更津つつみ保育園
- 門前にこここ保育園
- マリア愛児園
- 妙高市立妙高保育園
- 妙高市立矢代保育園
- 妙高市立斐太北保育園
- 妙高市立姫川原保育園
- 妙高市立ひまわり保育園
- 妙高市立新井北幼稚園
- 妙高市立新井南幼稚園
- 妙高市立水上保育園
- 妙高市立第一保育園
- 妙高市立第二保育園
- 妙高市立斐太南保育園
- 妙高市立和田保育園

延べ 1,695 名の幼児が夢中に遊び（学び）ました。

幼児期に大切なこと

- 『本気』×『楽しむ』
=『夢中になる』
- 『不思議』×『知りたい』
=『好奇心』
- 『できるかな?』×『できた!』
=『自信』

「鼻水をたらしても」
「服がよごれても」
「靴が濡れても」
「爪が真っ黒でも」
「顔が泥だらけでも」
「切り傷をつくっても」
「暗くなるまで遊んでも」
「母は許してくれたな・・・」
私の幼少時代の思い出です。保育士でもあった母は、これらの行為を認めてくれていました。成人して聞いたとき「そのときか（幼少期）出来ないからね」と話していました。
現代の子ども達にどれだけ当てはまるでしょうか。豊かな社会ですが、幼児期に何が大切なのかしっかりと考えなければなりません。
幼児期は人生の基礎を育むとても重要な時期です。多様な体験を通して、子ども達は自分の揺るがない力を身につけていくのです。
テレビで見たものではありません。

ゲームで勝ったことではありません。今、目の前にある自然や仲間が子どもの力になるのです。感情がぶつかり、認められ一喜一憂します。諸感覚を通して物事を理解し納得をしていきます。
自分が主体的に関わると、他者との関わりを通して自己の存在を意識します。
妙高青少年自然の家では、幼児期にふさわしい自然体験活動を研究し、プログラムを提案しています。ぜひ足を運んでください。子ども達の「豊かな体験」を一緒に深め広げていきましょう。